

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(6/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 (山梨県南アルプス市)	3.2	3.8 進捗度 ・耕作放棄面積 87% ・農業従事者 99% ・農業所得 83% ・市人口社会増減数 441% ・観光入込客数 98% ・地域資源を活用する民間企業の誘致数 50%	2.9 地域独自の取組 ・雇用創出奨励金事業 ・南アルプスブランド戦略事業 ・農業次世代人材投資事業 ・中高年の新規就農者支援事業 ・若者世帯新築支援事業 等	3.0	<p>・完熟農園跡地への集客施設誘致について、企業公募の検討段階であり、地域資源を活用した六次産業・農業所得・農業従事者を拡大していく上で、核となる事業が未だ見えていない印象がある。むしろひとつひとつの地道な取り組みで、就農者・移住者を確保していく他はないのではないか。</p> <p>・気象条件の影響を受けやすく、季節変動の大きい果樹に関しては、加工・商品開発による通年の生産を工夫していく必要がある。</p> <p>・耕作放棄地、農業従事者数、農業所得についてもなかなか目標の達成が困難な状況にあることがうかがえる。市全体としては活況を示しているといえるだろうが、市の生産活動の基盤となる農業についても、堅実に取り組むことで、相乗効果が発生することに期待。</p> <p>・数値目標(5)「市人口社会増減人数」については、社会減を徐々に減らす目標を立てているのに対し、既に社会増を実現し、しかも年々増加傾向にあり画期的である。</p> <p>・首都圏に近いという地の利を活かした移住者の呼び込みを進めてはどうか。コロナ禍の下で都市を脱出した人々のニーズに応えることができるのではないか。南アルプス市らしいライフスタイルを考える必要がある。</p> <p>・毎年変動する評価指標(2)「農業従事者」と評価指標(4)「農業所得」については、中長期の傾向把握や対策が必要。</p> <p>・「(7)地域資源を活用する民間企業の誘致数」は、連続して実績がゼロであったので、1件とはいえ、令和元年度に実績があったのも画期的だったと評価できる。規制の特例措置等を活用した事業や、国の支援措置に係る財政・税制・金融支援は活用実績がないが、地域独自の取組は相当程度、活発であると評価。</p>